

1 内政

ポンペイ州コロニア市長他、ソケース地区における違法採掘の容疑で逮捕。

7日、ポンペイ州警察はソケース地区において計8件の違法な採掘を行ったとしてホセ・コロニア市長及びその兄弟そしてポンペイ運輸局の人物1名の計3名を逮捕した。（当館注：ホセ市長は一旦当局に拘束されたが、その後証拠不十分であるとの市長側の弁護士の抗議を受けて釈放された。）

（1月7日付 カセリエプレス紙）

性等に基づく差別を禁ずる法律が連邦議会で可決される

昨年11月17日に開催された連邦議会特別会期において、人種や民族、性別、言語、宗教などによる差別を禁ずる法律（CA-20-150）が可決された。

（11月7日付 カセリエプレス紙）

911救急サービスの開始

9日、ポンペイ州公共安全局は911緊急コミュニケーションセンターによる業務を開始した。右開設にあたり19人の警察官が緊急医療従事者として任命された。右センターの開設によってこれまで以上に警察や救急による迅速な対応が可能となった。同センターの開設以降、既にいくつかの緊急事態が迅速に処理されている。

（1月7日付 カセリエプレス紙）

ポンペイ州で反汚職記念日を祝う催しが開催される

9日、ポンペイ州公共監査局は、反汚職に取り組むUNDPやUNODCと共に、反汚職記念日の催しをコロニア市内で開催した。催しには青年が招待され、ビデオによる啓蒙や反汚職をアピールする歌や踊り等が披露された。

（1月7日付 カセリエプレス紙）

2 外交

中国大使館、外交関係29周年を祝う中国映画祭を開催。

17日、当地中国大使館主催で中国・ミクロネシアの外交関係29周年を祝う中国映画祭がコロニアル市で開催された。映画祭にはプレトリック外務副大臣や地元の高校生（PICS）、スポーツ関係者等が招待された。

(17日付 中国大使館HP)

Huang 中国大使, ウォルター保健・社会福祉大臣と懇談

18日, Huang 中国大使は, 先にPNG・APEC首脳会議の際に行われたクリスチャン大統領と習国家主席との会談で, 保健分野における二国間協力の強化が合意されたことを踏まえ, ウォルター保健・社会福祉大臣との間で今後の医療や保健分野における二国間協力の他, 中国医療チームのミクロネシア派遣について協議した。

(18日付 中国大使館HP)

当地中国大使館の次席の交代

26日, コロニア市内のレストランにて当地中国大使館次席の交代レセプションが開催された。新しい中国大次席として Zhang Weitao 氏がニューヨークから着任した。レセプションにはジョージ副大統領, ロバート外相, その他閣僚, Neth 連邦議会議員他多数が出席した。

(26日付 中国大使館HP)

3 経 済

大統領が FSM 信託基金の透明性と説明責任に関する法律に署名

ミクロネシア連邦議会第6回特別会期中の12月3日, クリスチャン大統領は公法第20-147号に署名した。この法律は FSM 信託基金の管理者に, 同基金の状況について定期的な報告を行うことを要求するものである。これは当該管理者又は「受託者」が, 法律により, FSM 信託基金の状況について連邦議会への報告を要求されることを意味する。また「受託者」は, 資産管理に全力を尽くすことができる道徳的でありかつ良心的な人材である必要がある。

(3日付 カセレリエプレス紙)

世界銀行のアジア・太平洋地域副総裁が北太平洋島諸国を訪問

世界銀行の東アジア・太平洋地域副総裁が同人の橋渡し役となる人物を探すと共にポンペイ州民の生活状況を把握するためにポンペイ州を訪れ, ミクロネシアのリーダーや国家海洋資源管理局(NORMA)の職員等と漁業プロジェクト関係者と面会した。また, 世界銀行がミクロネシアを支援してきた持続可能なエネルギープロジェクトの視察も行った。さらにチューク州にも立ち寄り州政府のリーダーやチューク州女性協会の関係者とも面会した。同人は北太平洋島諸国訪問の主目的について, 小さな島国の発展状況について世界的な関心が寄せ

られており、これらの国々とのパートナーシップをより深めるためであると語った。

(2日付 大統領府HP)

中国国際輸入博覧会2018にミクロネシアが出展

在中国ミクロネシア大使館の外交官が、11月5日に開催された中国国際輸入博覧会(CIIE)に代表として参加した。史上初となった同博覧会には合計で172カ国、3,600以上の企業が出展し、6日間に渡り開催された。習近平国家主席は挨拶の中で、一帯一路政策の概念に通じた開放的な国際貿易、同様にwin-winの関係及び公平な世界交易について熱弁した。ミクロネシア連邦政府資源開発省と共同して、在中国ミクロネシア大使館は、コスラエ州のワワ・バナナチップス(Wawa Banana Chips)や緑のバナナ繊維(Green Banana Fiber)、またポンペイ州のポンペイ胡椒(Pohnpei Pepper)、アップデイトド・コーヒー(Updated Coffee)、ノニジュース(Noni Juice)、ココナッツ油石けん(Coconut Oil Bath Soap)、更にヤップ州のエーズ純水(A's Pure Water)やミクロネシア手工芸品の販売促進を行った。

(10日付 カセレリエプレス紙)

4 経済協力

日本政府が資金供与した多目的ジムが完成

3日、日本政府は草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じてポンペイ州最大規模の小学校であるネッチ小学校にジムを新しく建設した。当日は生徒、伝統的リーダーを含む自治体関係者、クリスチャン大統領夫妻を含む政府関係者等が集まった。

式典において堀江大使は日・ミクロネシア外交樹立30周年の記事が最新号の本紙(当時)に掲載されている事を紹介し、「Somewhere over the rainbow」を裕子夫人とギターで伴奏しながら歌った。

予算250,000米ドルの本プロジェクトの署名式は2017年3月10日に行われ、日本政府は180,970米ドルをグラントとして供与し、連邦議会が残額を支払った。着工式は同年6月16日に行われ、ブラックサンド建設会社が工事を担当した。

ネッチ地区長であるイリアルテ氏は開会のスピーチで、2国間で経済規模は大きな違いがあるが、同じ民主主義の国であり、長年の友人である日本政府の支援に感謝したいと述べた。

続いて8年生が賛美歌を歌い、同校のJICAボランティアである磯崎隊員が率いるコーラス隊が日本の太鼓やピアノなどの楽器に合わせ日本語で感謝

の歌を披露した（当館注：歌詞は在留邦人のロペス典子氏が考案したオリジナル）。

堀江大使のスピーチの後、リボンカットが行われ、その後ピーターソン・ポンペイ州知事が日本とミクロネシア連邦、特にポンペイ州の歴史について述べ、伝統的リーダーであるイソナンケンが閉会の言葉を述べた。

ミクロネシア連邦情報サービスによると、ネッチ小学校にジムを建設することはもうすぐ退職になるLoyola校長にとって長年の夢であった。

署名式の後、日本大使館がHPに掲載した記事によると、本ジムの建設目的は雨が多く外で体育の授業が出来ない状況を踏まえ、ジムを建設することで、同校の教育環境の向上を通じて生徒897人及び教師18人の肉体面及び精神面の向上と生活習慣病のリスクを低減することとしている。なお、今回建設されたジムは一般市民も使えるようになる。

式典にはモセス連邦議会副議長、Arponaポンペイ州政府教育局長代行、Loyolaネッチ小校長等が出席した。

（3日付 カセレリエ紙）

IOM(国際移住機関)、ポンペイ州政府公安局に新しいアンテナを供与

IOMは、最近の強風でダメージを受けたポンペイ州政府公安局の超短波ラジオ用の新しいアンテナを供与した。同アンテナはポンペイ本島と離島間の連絡手段として使われている。

（11月7日付 カセレリエ紙）

5 文化・教育

特になし。